

# 東京大学大学院医学系研究科

## 博士後期課程学生募集要項

### 添付書類

#### (健康科学・看護学専攻)

|                      |        |
|----------------------|--------|
| 入学願書作成時の注意事項について     | P. 1   |
| 指導教員一覧               | P. 3～  |
| 修士論文ガイドライン及び口述試験について | P. 5～  |
| 博士後期課程入試の外国語（英語）について | P. 11  |
| 医学系研究科の過去問題の購入方法について | P. 12～ |



## 入学願書作成時の注意事項について（健康科学・看護学専攻：博士後期課程）

※ 募集要項をよく読んで作成すること。

|                      | 対 象 欄   | 記 入 例 ・ 注意事項など  |
|----------------------|---|---|
| 願書<br>(表面)           | 志望専攻名<br>志望専攻分野<br>志望指導教員   | 別添の「指導教員一覧」を参照の上、記入すること。  |
|                      | 履歴  | 大学入学以降の履歴を記入すること。(短期大学等から大学へ編入している場合には、履歴欄の一番下に短期大学等を記入すること。)<br>諸外国の学校教育制度により修了の者は二重枠欄「Formal education outside Japan」に記入すること。         |
|                      | 職歴  | 欄内に記入しきれない場合、欄内には「別紙参照」と記入の上、全ての履歴を記入した別紙(A4判用紙)を添付のこと<br>職歴は原則「常勤」での勤務を記入すること。<br>*医師については、研修は、“(研修)”、非常勤医員としての勤務については、“(非常勤)”と記載すること。 |
| 願書<br>(裏面)           | E-mail  | 提出書類に不備があった場合の連絡は原則 E-mail または携帯に連絡することになるので、必ず記入すること。  |
|                      | 連絡場所(緊急時)   | 「現住所」欄と同様の場合は「 <input type="checkbox"/> 現住所と同じ」に <input checked="" type="checkbox"/> 印を付けること。   |
|                      | 学生証・研究生証・<br>教職員番号  | 本学の学生及び教職員のみ記入すること。   |
|                      | 健康診断  | 本学の学生及び教職員のみ記入すること。   |
| 写真票<br>受験票           | 志望専攻名<br>志望専攻分野<br>志望指導教員   | 別添の「指導教員一覧」を参照の上、記入すること。  |
|                      | 氏名  | 「写真票Ⅱ(兼学生証用台紙)」の「氏名」は入学した場合の学生証作成に使用するので、楷書体で記入すること。  |
|                      | C票貼付台紙  | 上下のシールを剥がしてC票(振込金受付証明書)を貼り付けること。  |
| 日本語能力証明書<br>(留学生のみ)  | 日本語検定試験等を受験している留学生については、合格証明書のコピー提出に代えることができる。                          |   |
| 改姓・改名の証明書<br>(該当者のみ) | 提出する証明書が旧姓・旧名により発行されている者は、改姓・改名の事実を証明する書類を提出すること(戸籍抄本、婚姻届受理証明書等)。コピー不可。 |   |
| 封筒への敬称記入について         | 封筒への出願者本人の宛名の下に敬称を記入する場合、「様」と記入すること。「行・宛」等は記入しないこと。                     |   |

### その他

- ・ 出願期間を過ぎた場合、理由の如何に関わらず一切受け付けることは出来ないので、出身学校等へ証明書等の発行依頼を早めに行うこと。万一、証明書の発行が間に合わない場合には、必ず事前に医学系研究科大学院係(電話 03-5841-3309)へ連絡すること。
- ・ 入学試験の試験時間については、受験票とともに郵送される「受験者心得」により確認すること。
- ・ TOEFL 成績を利用した外国語審査を行っています。詳細については、「健康科学・看護学専攻博士後期課程入試の外国語(英語)について」を参照のこと。

医学系研究科大学院係



平成30(2018)年度  
東京大学大学院医学系研究科〔博士後期課程〕受入予定指導教員一覧

2017年4月現在

○専攻分野と指導教員

- (1) 志願者は、志望する専攻の教員（教授又は准教授）を指導教員とします。
- (2) 志願者は、出願書類を提出する前に必ず指導教員に連絡を取ってください。
- (3) 各専攻分野の指導教員並びに研究分野は下表のとおりです。本年度で退職予定の教員等は、指導できない場合があります。
- (4) 所属講座（部門）の略称は次を表します。  
疾＝疾病生命工学センター、寄＝医学部寄附講座、社＝医学部社会連携講座

健康科学・看護学専攻

| 専攻分野         | 指導教員                | 研究分野   | 所属講座(部門) |
|--------------|---------------------|--|----------|
| 看護管理学        | 准教授 武村雪絵            | 看護管理学全般、リーダーシップとマネジメント、組織開発、チーム・ビルディング、ダイバーシティ・マネジメント、看護職のキャリア発達支援           | 予防看護学    |
| 看護体系・機能学     | 准教授 武村雪絵(兼)         | 看護の機能と役割、看護理論、看護過程、看護倫理、臨床判断   | 予防看護学    |
| 高齢者在宅長期ケア看護学 | 教授 山本則子             | 高齢者在宅長期ケア(long-term care)看護全般、長期ケア・訪問看護の質保証、認知症高齢者と家族の看護、地域ケアシステム開発          | 臨床看護学    |
| 緩和ケア看護学      | 教授 山本則子(兼)          | 高齢者の終末期(end-of-life)ケア全般、看護実践からの知の開発   | 臨床看護学    |
| 地域看護学        | 教授 山本則子(兼)          | コミュニティケアシステム、保健師の支援技術、対象別(母子・精神・高齢者・障害等)保健活動、退院支援                            | 予防看護学    |
| 行政看護学        | 教授 山本則子(兼)          |  | 予防看護学    |
| 家族看護学        | 教授 上別府圭子            | 家族看護学全般・小児看護学全般。家族のアセスメントと家族看護学的アプローチの開発。家族のQOL、小児がんの長期フォローアップ、虐待予防、ジェンダーと看護 | 予防看護学    |
| 精神看護学        | 准教授 教授 宮本有紀 川上憲人(兼) | 精神科看護、社会復帰支援、リハビリ、産業精神看護   | 臨床看護学    |
| 老年看護学        | 教授 真田弘美             | 老年看護学全般 高齢者重点看護技術(褥瘡、下肢潰瘍、低栄養、嚥下障害、失禁)                                       | 臨床看護学    |
| 創傷看護学        | 教授 真田弘美(兼)          | 創傷治癒総論、創傷予防・管理看護技術、創傷看護理工学、ホリスティック創傷ケア                                       | 臨床看護学    |
| 母性看護学・助産学    | 准教授 春名めぐみ           | 妊娠・産褥期の生活と健康、生理学的根拠に基づく分娩時ケアの改善、女性のライフサイクルにかかわる健康課題                          | 臨床看護学    |
| 医療倫理学        | 教授 赤林朗              | 生命・医療倫理学全般(様々な人文・社会科学的方法論を用いる)、臨床倫理、研究倫理、看護倫理、保健・医療行政、保健・医療経済                | 健康科学     |
|              | 准教授 瀧本禎之            | 医療倫理学、臨床倫理、臨床倫理コンサルテーション、意思決定プロセス  | 健康科学     |
| 生物統計学        | 教授 松山裕              | 生物統計学、医学研究の計画と医学データ解析、臨床試験の方法論   | 健康科学     |
| 疫学・予防保健学     | 教授 松山裕(兼)           | 疫学、疫学研究の計画と解析、理論疫学   | 健康科学     |
|              | 准教授 大庭幸治            | 疫学、疫学研究の計画と解析、メタ・アナリシス   | 健康科学     |

|                           |       |          |   |               |
|---------------------------|-------|----------|---|---------------|
| 健康増進科学                    | 准教授   | 瀧本 禎之(兼) | 今回は募集いたしません   | 健康科学          |
| 健康学習・<br>教育学              | 教授    | 橋本 英樹    | 社会・経済・文化的要因と健康との関連に関する社会行動学的研究を広く含む                                     | 健康科学          |
| 健康社会学                     | 准教授   | 近藤 尚己    | 健康の社会的決定要因に関する疫学研究。キーワード：<br>貧困・社会関係・ソーシャルキャピタル・景気動向・高齢者・健康格差是正のための介入手法 | 健康科学          |
| 精神保健学                     | 教授    | 川上 憲人    | 地域における精神障害の疫学、地域精神保健および自殺予防・うつ病対策、職業性ストレスの理論、測定、健康影響および対策               | 健康科学          |
| 精神保健政策学                   | 連携教授  | 金 吉晴     | 心理的トラウマ、災害精神保健、疫学、バイオマーカー、支援制度、政策、治療                                    | 健康科学          |
|                           | 連携准教授 | 西 大輔     | 精神保健疫学、うつ病・PTSDの予防、栄養精神医学、産業精神保健、レジリエンス、外傷後成長                           | 健康科学          |
| 社会予防疫学                    | 教授    | 佐々木 敏    | 栄養疫学、公衆栄養学、社会予防疫学   | 健康科学          |
| 放射線健康科学                   | 教授    | 宮川 清     | 放射線の人体影響、血液学、腫瘍学  | 疫学・放射線分子医学    |
| 音声言語保健学                   |       |          | 今回は募集いたしません   |               |
| 歯科保健学                     |       |          | 今回は募集いたしません   |               |
| 保健医療情報学                   | 教授    | 大江 和彦    | 医学知識ベース、病院情報システム、電子カルテ  | 医療情報学（社会医学）   |
| 医療コミュニケーション学              | 教授    | 木内 貴弘    | ヘルスコミュニケーション、メディアコミュニケーション  | 疫学保健学（公共健康医学） |
|                           | 准教授   | 石川 ひろの   | 患者・医療者間コミュニケーション、医療者のコミュニケーション教育、患者教育                                   | 疫学保健学（公共健康医学） |
| ライフサポート<br>技術開発学          | 特任教授  | 森 武俊     | 看護工学、みまもり工学、センサ工学、人の行動確率モデル、インタフェースデザイン、生活不活発病                          | 寄             |
| アドバンストナ<br>ーシングテクノ<br>ロジー | 特任准教授 | 村山 陵子    | 今回は募集いたしません   | 社             |
| スキンケアサイ<br>エンス            | 特任准教授 | 峰松 健夫    | 皮膚の不快感（痛み、痒み）、皮膚バリア機能、皮膚炎症、スキンケアセサメント、スキンケア                             | 社             |
| イメージング看<br>護学             | 特任准教授 | 藪中 幸一    | イメージング看護学、イメージング技術による看護技術支援システムの開発、イメージング技術を用いた遠隔サポートシステムの開発            | 社             |

東京大学大学院医学系研究科

健康科学・看護学専攻 博士後期課程受験者用

修士論文ガイドライン及び口述試験について

**※ Not for International Health**

## ※ Not for International Health

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 博士後期課程受験者用  
修士論文ガイドライン ー平成30年入試ー

修士論文は原則として原著性のある論文とする。下記の要領に従い、各自の修士論文を8頁に整え、提出する。この8頁の論文を用いて審査を行なう。提出された修士論文は、当専攻で入試にかかわる教員全員に配布される。このことを踏まえて、修士論文は、専門分野が異なるとしても、可能な限り学術論文としての体裁に統一し、審査を容易とするように、適切かつコンパクトに作成するものとする。ここに、そのためのガイドラインを定める。

このガイドラインは、あくまで明快で読みやすい良い論文を作成するためのものである。本ガイドラインで意を尽くせない部分は、論文作成者の工夫で補って、よりよい論文の作成を心掛けることが望まれる。論文のまとめ方も審査の評価に含まれる。ただし、論文全体を8頁以内とすることは厳守すべきである。

1. 使用する言語は、日本語ないし英語とする。ただし英語でも日本語でもそれを母語としない人が書いた場合は、その言語に慣れた人か native speaker の校閲を受けることを原則とする。

2. 修士論文の体裁と作成要領は以下を原則とする。著しく逸脱した論文は審査しないこともある。なお、論文とは別に付録などを付ける場合については、後述する。

### 3. 論文の体裁と作成要領

1) ワードプロソフト等を用いて作成する。

2) 論文全体（図表などを含む）をA4で8頁以内とする。片面にのみ印字する。

3) 頁は2段組とし、上下左右の余白は2.5cm程度、段の間は1.0cm程度とする。ただし、論文表題、抄録などは後述するように1段組とする。図表は2段組にとらわれず適切に配置する。

4) 日本語の場合、明朝(10ポイント)で、1頁48行とする(1頁は400字詰原稿用紙で約5枚)。英語の場合、CenturyやTimes New Romanなどで、10ポイント以上とする。ただし、論文表題など、および、緒言、方法、結果、考察などの表題はゴシック(あるいはボールド)を用いる。

なお、内容から必要であって、かつ、論文が読みやすい範囲内であれば、文字の大きさを小さくし、1頁の文字数を2000文字以上としてもよい。

5) パラグラフの開始行は文頭を、日本語では1文字下げ2文字目から、英語では2文字下げ3文字目から記述する。



## 6) 構成

論文は以下の(1)～(11)で構成されるものとする。(1)～(9)はこの順序で改頁せずに配置する。各構成は、緒言、方法、結果、考察、結論、謝辞、文献などまたはそれに準ずる表題を付ける(抄録は表題を付けない)。なお、内容から必要であれば、論文の構成(緒言、方法、結果、考察など)を変更してもよい。表題はその前を1行空け、ゴシック(あるいはボールド)を用いて、段の中でセンタリングする。次の行から本体を記述する。方法や結果などで下位セクションが必要な場合は、下位セクションの表題は左寄せとし、全角で1、半角で1)、半角で(1)の段階で整理する。

### (1) 論文表題・著者名・指導教員名・所属

論文表題、著者名、指導教員名と所属(大学名・研究科名・専攻名・分野名)を、それぞれ1行空けて、日本語と英語で記載する。日本語論文の場合は、日本語を上、その英文を下につけ、英語論文の場合は、その逆とする。それらはすべて1段組で、ゴシック(あるいはボールド)を用い、センタリングする。論文表題などを倍角としたり、行間を変更したりしない。

### (2) 抄録 Abstract および Key words

- a) 抄録あるいは Abstract は1段組とする。論文表題などの最後から1行空けて記述する。抄録などの表題を付けない。
- b) 日本語の論文には800字以内の日本語抄録を、英語論文には250語以内の英文 Abstract をつける。目的・方法・成績・結論などに分けてもよい。抄録 Abstract には、何を目的に、どのような対象にどのような方法を用いて、どのような結果を得て、その意味はどうか、を簡潔に記述し、論文全体のまとめとなるようにする。緒言の一部であったり、結論と同様なものであったりしてはならない。
- c) 英文の Key words (5語以内)を抄録の次の行に、1段組で、Key word : に続けて、アルファベット順に並べて記述する。

### (3) 緒言(はじめに) Introduction

従来の研究の概観を行い、今後の課題を明らかにし、それらを踏まえて当該研究の必要性和研究目的あるいは仮説を述べる。

### (4) 方法 Method

- a) 対象、方法など適当な下位セクションに分け、簡潔に記述する。
- b) 対象(対照を含め)が人の場合には、平均年齢とその標準偏差(SD)、性比を記述し、その他必要な人口統計学的情報(但しこれが研究結果になるような場合は、結果の項に記載する)を述べる。地域や組織あるいは動物などを対象としたものでも、対象について適切な情報を述べる。
- c) 方法の部分は、研究の再現性を可能とするように、研究方法の概要を述べる。研究で用いた未発表の尺度、機器、設備や薬品などは、その概要を記述する。

### (5) 結果 Results

得られた結果を簡潔に記述する。この部分では図表も用いるが、文章では図表の要点を記述し、図表の内容を詳細に重複して述べることは避ける。表の内容を図でも重複して表現することはしない。

### (6) 考察 Discussion

従来知見などと対比して、得られた結果の意義(および限界)を討論し、今後の研究方向など。

## ※ Not for International Health

を示唆する。緒言のセクションで述べられるべき、文献レビュー的な部分は不要である。あくまでも従来の知見と対比して、得られた結果の意義を十分に討論すること。考察を下位セクションに分けて行なう場合（長い考察の場合）には、考察としての統一性を保つように留意する。下位セクションごとのまとまりはよくても、全体としてのまとまりがなかったり、論旨が一貫しなかったりするものが往々あるので注意する。

### (7) 結論 Conclusion

抄録とは異なるので、得られた結果の重要な部分とその意義を簡潔に述べるにとどめる。

### (8) 謝辞 Acknowledgment(s)

最初に当該研究を部分的にせよサポートした研究費があれば記載する（例：本研究の一部は、文部省科学研究費一般研究(B)（課題番号:00000000）によって行われた）。次いで、研究の一部あるいはすべてを学会などで発表した場合は述べる（例：本研究の一部は、第1回日本健康科学・看護学会（東京、2004年1月）で発表した）。最後に、必要があれば、研究のために一定の貢献をしてくれた人達、また論文を校閲した指導教員などへの謝辞を述べる。ただし実際の貢献はしていない先輩の名前を、単に儀礼的に入れることはしない。

### (9) 文献 References

a) 引用した文献のみで、いわゆる参考文献のリストはつけない。

b) 当該研究が含まれる領域または投稿予定の専門誌の投稿規定に従って、一貫した様式で記載する。本文内の引用もそれによること（番号で引用または著者名と年号で引用など）。あるいは、非実験系の論文では、“American Psychological Association. (2001). Publication Manual of the American Psychological Association (5th ed.). Washington, DC: Author.” に従うとよい。また実験系では、“International Committee of Medical Journal Editors. Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Writing and Editing for Biomedical Publication. <http://www.icmje.org/> ” が、よいガイドラインとなる。

### (10) 表 Tables、図 Figures

図表は白黒とし、2段組にとられず適切に配置する。文中に挿入しても、論文の最後に配置してもよい。図表はそれのみを見て、データの意味が明確に伝わるように作成する。したがって適切な表題や必要なら註をつける。表に罫線を引く場合は、原則として水平方向のみとする。投稿規定を採用した雑誌の投稿規定が示唆していない限り、縦の罫線や表の周囲を線で囲むことは避ける。図表には、図1、2、3、表1、2、3などと順番をつけ、本文で引用する。図表は不要なものを載せず、できるだけ少なくする。

### (11) 付録 Appendix (Appendices)

文献の後に必要に応じて付けてもよい。付ける場合は、付録または Appendix (Appendices) とゴチックで書き、段の中で、センタリングし、次の行から本体を記述する。

4. 使用したオリジナルな評価尺度や質問紙あるいは調査票の実物などについて、論文と別に提出してもよい。論文の作成要領に準じて、論文表題と著者名を付け、付録あるいは付図・付表として作成する。これは論文と一緒に3部提出する。なお、論文審査で参考にすることもある。

## II. (修士) 論文の評価基準

論文は以下の基準により審査される（各基準の重みは一律ではないが、評価者の観点としては含まれる）。

1. テーマの新規性・独創性・着眼性
2. 論理的（科学的）な思考能力
3. 方法（アプローチ）の妥当性
4. 結論の implication・テーマの発展性
5. プレゼンテーション・質疑応答能力
6. 研究への貢献度
7. 論文の体裁

## ※ Not for International Health

### 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 博士後期課程入学試験における口述試験について

筆記による一次試験を通った者が二次試験に進み、口述試験を受ける。口述試験は、修士論文を8頁に集約したもの（別紙参照）を基に発表を行い、主査・副査・フロアーからの質問に答える形で行われる。これには、博士課程入学後の「研究計画」を含める。

#### スライドの準備

- ・ 発表時間は1人15分間とする
- ・ 発表にはPower Point for Windowsを用いることができる（Macは不可）
- ・ ファイルは5MBまでとし、USBメモリーで持参する
- ・ アニメーションの設定は行わない
- ・ ファイル名は自分の受験番号とする
- ・ 試験会場でPCにインストールする際に試写を行うことはできるが、内容の修正は出来ない

#### 発表の際の注意

- ・ 発表の際のスライド操作は自分で行なうか、志望する分野の教室員に依頼することができる。依頼する場合は事前に担当者に了承を得ることとし、試験開始前にその旨を申し出る
- ・ スライド操作を補助する者は発表終了後、質疑の前に速やかに退出する

## 健康科学・看護学専攻博士後期課程入試の外国語（英語）について

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻においては、筆記試験科目「外国語（英語）」に替えて、TOEFL 成績を利用した外国語審査を行います。

上記専攻の博士後期課程へ出願する方は、TOEFL の成績証明書【ETS (Educational Testing Service) から本人宛に送付された「Test Taker Score Report (Examinee Score Report)」のコピーおよび ETS から本研究科宛に直接郵送される「Official Score Report】の提出が必要です。提出にあたり以下について遺漏のないよう十分ご注意ください。

|   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | 試験の種類  | 対象とする TOEFL の種類は、ペーパー版 TOEFL (PBT)、またはインターネット版 TOEFL (iBT) のいずれかによるものとします。日本国内においては、原則的に TOEFL (iBT) のみが実施されています。   |
| 2 | 有効期限   | TOEFL の成績は、夏入試の場合平成 27 (2015) 年 7 月 1 日以降、冬入試の場合平成 28 年 (2016) 年 1 月 1 日以降に受験したものに限定します。  |
| 3 | 提出物 1<br>「Test Taker Score Report (Examinee Score Report)」 | 「Test Taker Score Report (Examinee Score Report)」のコピーは、出願書類に同封し、出願期間中に提出とします。また、それに対応する「Official Score Report」の発行を ETS へ請求した Web 画面を印刷したもの（請求日付が確認できるもの）も同封してください。  |
| 4 | 提出物 2<br>「Official Score Report」                           | 「Official Score Report」は、上記 3 で提出したものと同一受験時のものを ETS に「DI (Designated Institution) コード 8426」宛に送付するよう請求してください。<br>提出期限：以下の願書出願期間消印有効日の最終日必着<br>【社会人等特別選抜】平成 29 年 7 月 7 日（金）<br>【一般選抜】平成 30 年 1 月 10 日（水）<br>※ 東京大学や他の研究科のコードで請求しても本研究科には届きませんのでご注意ください。<br>なお、ETS から「Official Score Report」が本研究科に到着するまでには、かなりの日数（6 週間程度）を要しますので、上記の提出期限に間に合うよう請求してください。<br>詳しくは、TOEFL ホームページ ( <a href="http://www.cieej.or.jp/toefl/">http://www.cieej.or.jp/toefl/</a> ) で確認すること。 |
| 5 | 注意事項   | 以下の場合、TOEFL の成績は無効とみなして、外国語審査を受験しなかったものとして取り扱います。<br>(1) 提出期限までに ETS から「Official Score Report」が届かなかった場合。<br>(2) 「Test Taker Score Report (Examinee Score Report)」のコピーと「Official Score Report」が一致していない場合。<br>(3) 指定された期日（上記 2 参照）より前に受験した TOEFL 成績を提出した場合。<br>(4) その他不正な方法で提出した場合  |

東京大学大学院医学系研究科事務部  
〒113-0033 東京都文京区本郷 7 丁目 3 番 1 号  
Tel. 03-5841-3309 (大学院医学系研究科大学院係)

## ○ 医学系研究科の過去問題の購入方法について

東京大学大学院医学系研究科の大学院過去入試問題は、東京医学会にて取り扱っています。

### I 過去問題一覧 過去問題の種類、価格など

### II 購入方法について

- ① 郵送をご希望の場合 — 代金の振り込み方法など
- ② 東京医学会に来室して購入する場合 — 東京医学会の地図・販売時間など

### I 過去問題一覧

医学系研究科 過去問題一覧（問題集は1冊から購入できます）

| 課 程                         | 入 学 年 度       | 価 格       |
|-----------------------------|---------------|-----------|
| 医学博士                        | 2010年度～2017年度 | 1,000円/1年 |
| 健康科学・看護学専攻博士後期（2月実施）        | 2009年度～2016年度 | 300円/1年   |
| 健康科学・看護学専攻博士後期（8月実施）        | 2010年度～2017年度 | 300円/1年   |
| 医科学専攻修士                     | 2010年度～2017年度 | 300円/1年   |
| 健康科学・看護学専攻修士 ※              | 2010年度～2017年度 | 1,000円/1年 |
| 国際保健学専攻修士                   | 2010年度～2017年度 | 400円/1年   |
| 健康科学・看護学専攻修士（保健師コース・看護師コース） | 2010年度～2017年度 | 300円/1年   |
| 公共健康医学専攻（専門職学位課程）           | 2010年度～2017年度 | 1,000円/1年 |

※保健師教育コース、助産師教育コースの受験を志望する場合はこちらを参照すること

### II 購入方法について

#### ① 東京医学会に来室して購入する場合

|      |  |
|------|--|
| 販売元  | 一般財団法人 東京医学会 [ 東京大学医学部総合中央館地下1階 ] ※下記地図参照<br>Tel: 03-5841-3681 Fax: 03-3816-3287 E-mail: igakukai@m.u-tokyo.ac.jp<br>HP: <a href="http://square.umin.ac.jp/igakukai/02toppage/toppage.html">http://square.umin.ac.jp/igakukai/02toppage/toppage.html</a> |
| 販売時間 | 10:00～12:00、12:30～17:00（平日：図書館閉館日を除く）<br>※土曜・日祝日は閉室  |



② 郵送をご希望の場合（郵便振替にて取り扱っています。）

- 1 ゆうちょ銀行にて青い伝票に必要事項を記入（下記参照）し、必要金額を振り込んでください。
- 2 入金を確認後、発送いたします。

| 払込取扱票記入について |   |
|-------------|---|
| 口座記号番号      | 00150-2-639261  |
| 口座名称(漢字)    | 一般財団法人 東京医学会  |
| 口座名称(カナ)    | ザイ) トウキョウイガクカイ  |
| 振込金額        | 下記①+②の合計金額をご記入下さい。<br>① [ 問題集代金 ] * 「I 過去問題一覧」 「価格」 欄参照<br>+<br>② [ 郵送料 500 円(手数料 込) ] * 海外の場合は 2500 円  |
| 通 信 欄       | 通信欄に、過去問題の「課程」と「入学年度」を必ずご記入ください。<br>通信欄記入例<1><br>医学博士                      2010 年度～2017 年度    8,000 円(1,000 円×8 年分)<br>郵送料(手数料込み)                      500 円                      合計 8,500 円<br>通信欄記入例<2><br>医科学専攻修士                      2013 年度～2017 年度    1,500 円(300 円×5 年分)<br>健康科学看護修士                      2015 年度～2017 年度    3,000 円(1,000 円×3 年分)<br>郵送料(手数料込み)                      500 円                      合計 5,000 円 |
| 注 意 事 項     | ・払込票(受領証)は、過去問が届くまで保管してください。<br>・お振込人と送付先が異なる場合はその旨、通信欄に明記願います。<br>・海外発送の場合、郵送料(手数料込み)は2,500円になります。   |
| そ の 他       | 不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。<br>一般財団法人 東京医学会<br>〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学医学部内<br>Tel: 03-5841-3681 Fax: 03-3816-3287<br>E-mail: igakukai@m.u-tokyo.ac.jp<br>HP: <a href="http://square.umin.ac.jp/igakukai/02toppage/toppage.html">http://square.umin.ac.jp/igakukai/02toppage/toppage.html</a>   |

○ 医学系研究科大学院入試に関するお問い合わせ

東京大学医学部大学院係

Tel: 03-5841-3309 (平日 9:00 ~ 17:00) E-mail: in@m.u-tokyo.ac.jp

HP: <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html>

(大学院入試情報)